



「初めまして、本日治療のお手伝いを

させて頂きます看護見習いの

すーぱーそに子と申します

佐藤さんの担当看護師を任されました」

え？あの…

「あ、すみません変な格好で  
驚かせちゃいましたね」

「今回のED治療は患者さんに

リラックスをして頂くために当院が

試験的に行っている治療になります

といっても私のすることは

治療後の経過確認だけなのですけど

ふつつか者ですが全力でとりやあつと

頑張りますのでなんでも頼ってくださいね」





「EDは心の病といます

なのでちよつと厚がましいのですが今日は  
私のことを恋人だと思って接してみてください  
ええ…と下のお名前は…隆さんですね」

「ではさっそく患部を診せて…あ…こんな言い方は  
良くありませんね

そこに子に隆さんの…その…」

「…私が恥ずかしがってはいけませんっ」

「そこに子に隆さんのおちんぼさんを見せてください」

ええ！いきなりそんなこと言われても…

しかもこんな可愛い子に…

…それに萎んだ状態を見られるの恥ずかしいな



「そうですね…ではおちんぼさんが  
元気になるようにお手伝いします  
えと…胸を…触ったりしたら  
元気になりますでしょうか？  
…衣装の上からでかまわないのであれば…」  
本当!? 衣装って…殆ど直接だけと…  
まあ…じゃあ…遠慮なく

「はい…どうぞ…隆さんのおちんぼさんが  
元気になるまで、そこの子のおっぱい  
揉んで下さい」

うおお…なんだこのズッシリとしたポリユーム  
存在感半端ねえ！まるで巨大な水まんじゅう  
のような柔らかかさ…超最高！





「なんか…感想を言われながら揉まれると  
照れてしまいますね…ああっ  
あの…先端は…」

生地が薄いから  
形がはつきりわかつちやうね

あれ？なんだこれ？

このハート型の部分  
ちよつと剥がれかかっているよ

「え？ほ…本当ですか？」

ん？なるほど…

僕は今、病院の方針を理解した気がする！



「それはどういう…」

「ああっ…や…剥がしちゃダメです…」

「おお、ハート型にくり抜かれた部分から  
ピンク色のサクラランポが顔をだした！」

「あ…見えちゃってます…」

「もどに戻して下さい〜」



「いやいや明らかに剥がすこと前提で  
作られた衣装だよな」

「これって病院は始めからこうする  
予定ってことでしょうか？」

「そ…そうなんですか…」



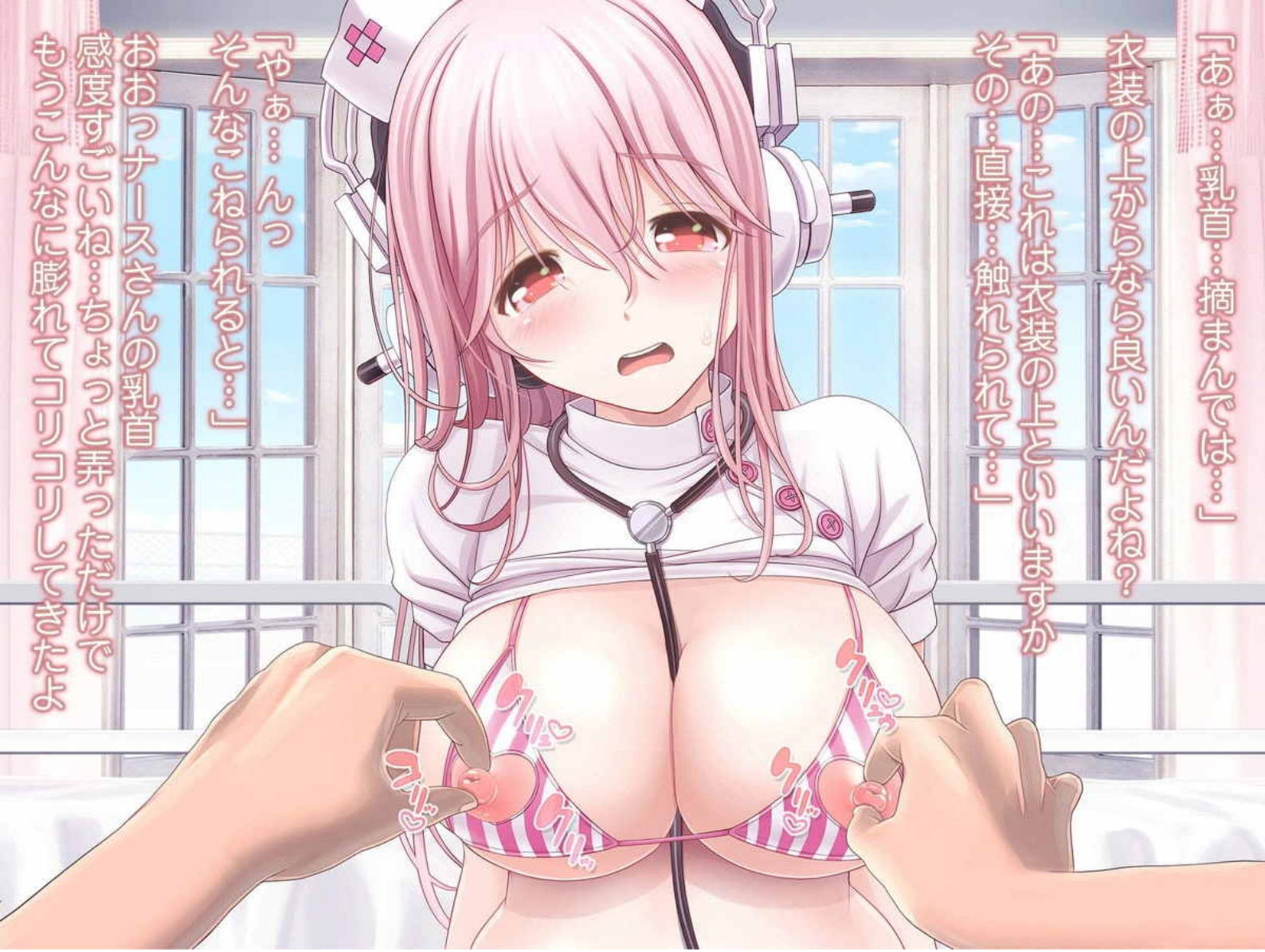
「ああ…乳首…摘まんでは…」

衣装の上からなら良いんだよね？

「あの…これは衣装の上と…いいですか  
その…直接…触れられて…」

「やあ…んっ  
そんなごねられると…」

おおっナースさんの乳首  
感度すごいね…ちよっと弄っただけで  
もうこんなに膨れてコリコリしてきたよ



僕を勃たせるより先に

ナースさんが乳首をこんな

勃起させちゃって

これは…職務怠慢なんじゃないかな

「も…申し訳…ありません…」

あの…まだ元気になつては

いませんか…？」



いやいやこれくらいで勃つなら

通院しないでしょ

あ、それと大事なことを言い忘れてたんだけど

僕って胸よりお尻、下半身派なんだよね

ナースさんがパンツ見せてくれたら

元気になってくるかも！



「そ…そういらつことでしたら…  
仕方ありませんね  
こ…これで…」

ダメダメもつと足を  
開いてくれないと  
良く見えないよ

「は、はい…  
こう…でしようか？」

いいね！やっぱパンツも  
極小サイズでなんともエロエロしい  
ナースさんのツルツルの恥丘が  
はみ出ちゃってる



生地も薄くて柔らかかな感触が  
指に伝わってくるよ

「あ…あの…触っては…」

衣装の上からなら  
良いんだよね？

「いえ…そのは…その」

もう触っちゃってるんだし今更だよね  
ナスさんも早く僕が勃つように  
協力してくれないと





「おやおや〜

ハート型の部分が  
捲れてきてるな

「ああ  
ダメですそこは剥がしちゃ  
その位置が空いたら本当に」

「み…見えちゃいますから…」

「この焦らしっぷり流石は専門職！  
いっ！はじゅんり…」

「焦らしている訳ではなくて…  
あ、ああ…見られちゃう…」



「……ああ……」

おおっつ  
ナスさんのお豆さんが  
ピョッコリ出てきたぞ  
こっちも淡いピンク色だね  
こんな色素の薄くて綺麗な  
オマンコなかなが見れないよ

「やあ……恥ずかしい……」

大丈夫！  
全部は見えてないから

「そ……そういう問題では……」





じゃあ衣装の上から弄ってあげるね

「ああ……んっ……」

隆さんの指が

直接……私のクリトリスに触れて……」

お、段々とコリコリしはじめてきたぞ  
気持ち良くなってきた？



「気持ち良いだなんて……そんな……」と

なんだ違うの？おかしいな

「そ……そんな……強く動かされると……んあっ」

「はあはあ…」

こんなに濡らしてパンツに大きなシミまで  
作っちゃってこれでも気持ち良いの認めないの？

「す…すみません…本当は…隆さんの指で  
クリトリスをこねくり回されて…」

「もう少しでイッてしまいそうな  
くらい…感じてしまいました」

正直でよろしい、じゃあ嘘をついてた罰として  
もっと気持ち良くなってるどころ  
見せてもらおうかな





「ああ…患者さんの前で下着を脱いで  
こんな姿になってるなんて…」

大事な処を聴診器で隠すなんて  
ナースさんは本当、焦らすのが上手いな  
でもそれで隠れるなんて  
小さなオマンコしてるんだね

じゃあ始めてもらおうかな

「は…はい…では…あの…  
隆さんのおちんぽさんを  
元気にする為に…今から…そこの  
オ…オナニーをお見せします」



「ん……あ……」

ダメだよナースさん  
ちゃんと何をしているか  
説明しながらしてくれないと

「せ……説明ですか……  
はい……わかりました……」

「あの……オ……オナニーの  
最初は……胸を下から包み込むように  
優しくマッサージしていきます」

いいね、でもまだ言葉が固いかな  
もっとエッチな表現じゃないとそそらないよ





「はい…」

おっぱいを揉み始めると  
段々乳首が勃起してくるんです  
だから勃起し始めた乳首を  
指でコリコリと転がして…」

アッ♡

アッ♡

「更に固く膨らむまで  
ごねくり回してあげます  
ん…あ…するともう乳首は  
ピンピンに勃起しちゃうんです」



「完全に勃起した乳首は更に敏感になるのと同時に多少の痛覚さえ気持ち良さと感じてしまいますなのでちよつと強めにひっぱたりしていいじてあげてください」

「んっ……あぁっ……や……説明しながらオナニーしてるところを見られてるん思うんですけど……はやく……きちやいそつ……です  
ああ……私……おっぱいだけで……  
んあぁ……っ」





「おっぱいだけで軽くイッてしまったので…  
もうアソコ…おまんこはグシヨグシヨと  
濡れてしまっています」

見せてくれないとわからないよ

「はい、降さんにその子の  
…おまんこ…お見せします」

おおおっ！遂に見えた  
ナスさんのビシヨ濡れオマンコ  
丸見えだよ！

「ああ…恥ずかしいので…あまり  
まじまじと…見ないで下やろ」



「あの…では続きを…ん…ん…」

「おお、すごいよナースさんのオマンコおっぱいを弄るたびにどんだん蜜が溢れてきてる」

「ああ…おまんこ見られながらオナニーしちゃってます」

「ほらオマンコがこんなに蜜を滲ませて触って欲しそうにしてるよ」

「はい…おっぱいの刺激で十分感じてきたら今度はおまんこを弄ってあげます」





「すでに勃起して半剥けになっているクリトリスの包皮を指で完全に捲り上げます。空気にクリトリスが触れる感覚だけで感じてしまうほど敏感な部分なんです」

ナースさんのクリトリス勃起してクッキリ形がわかるね

「あ…わたし患者さんに自らクリトリス晒しちゃってます…」

いいよいいよ！

その調子だよ僕も段々勃起してきそうだよ



「本当ですか？」

では…私も頑張ります

…おまんこはもう十分濡れているので

愛液を指に絡ませて

おまんこの力を抜きながら

ゆっくり中に差し込んでいきます」

本当だおしりの穴が少し開いて  
力を抜いてるのがわかるよ

「ああ…そうなんですか…？」

「そんな処見ちゃダメです…」





「指を奥まで差し込んだら  
指の関節動かして

おまんこの中をさすってあげます」

見た目は地味だけど…

お…段々クチュクチュ音がし始めたぞ！  
これはこれで良いかも



でもナースさんが指を出し入れ  
するところも見たいな

「はい…慣れてきたら

指のお腹でクリトリスを刺激しながら  
徐々に手を動かしていきます」







「はあ…はあ…はあ…

イッてしまいました…

如何でしたでしょうか…?」

すごかったよ

ナースさん

本当にイッちゃったの?

ビクッ

はあ

はあ

ビクッ

ビク

ビク

ビクッ

「はい…イクとしばらく

アソコが痙攣してしまうんです

ヒクヒクしているの…わかりますか?」

ん?よくわからないな…

あ、広げてくれたらわかるかも



「隆さんは疑り深いですね…」

では特別に…そこに予の

イッたばかりのおまんこ

くばあしてお見せします」

「これで…見えますか？」

おおっ！すごい丸見え！



中が広がったり縮んだりして  
ヒクヒクしてるのがわかるよ！

「さすがに恥ずかしいので…」

納得して頂けたらもう終わりですよ」



「さて、私がこれだけ恥ずかしい  
思いをしたんですから  
今度は隆さんのおちんぼさん  
を見せて頂きますよ」

え、いや待って  
まだ勃ってないから



「そんな言い訳はもう通じません  
これは治療ですからね  
恥ずかしかってはいけませんよ  
さあおスボン脱がしちやいます！」

わ〜！ やめて… あ〜れ〜！！



「わわわわっ

もうごんなになっってるじゃないですか

…す…す…いいカチ」チです」

「……………」

うわ…ナースさんが

マジマジと僕のを観察してる

ぷるんっ

「ああっ スミマセン

ちよっと驚いてしまっって…

勃起は問題ないみたいですね」

おかげさまで

「では次の段階に移ります  
おちんぼさんが射精する処  
そこに子に見せてくださいね」  
そんなことまでするの？  
「はい当前ですよ〜」



「きっちり性行為が出来るまで回復して  
いるのかを確認する検査なんですから  
こうやって…スベスベのローションを塗って  
私がマッサージして上げますからね〜」



「どうですか〜？」

「気持ち良くなってきましたか？」

うん、いや気持ちは良いけど

やっぱりナースさんに見られながらだと緊張しちゃってそう簡単にイけないよ

「恥ずかしがらないで良いですよ〜」

「私のことは恋人だと思ってくださいね

だからナースさんじゃなくなつて

そに子って呼んでください隆さん」

「はい、隆さん」



おお…予想以上にくるものがある

「して欲しいことは何でも言ってくださいね」

じゃあ…その、そに子の胸って大きいから  
パイズリって…出来たりするのかな?…なんて



「どうぞでしょうか…やってみますね

じゃあそに子のおっぱいで  
隆さんのおちんぽさんを包んじゃいます」

おおお…本当にしてくれるんだ!





やばい……これ本当に出るかも……

「はい、出しちゃって

良いですよ」

あ、でもこのまま出したら

ナースさん……そに子に

掛かつちゃうよ

「構いません……このまま射精してくだら

隆さんの精液、全部私の顔に

掛けちゃってください

そに子のお口で受け止めますから

たくさん出してください」

あっ……込み上げてくる……イキそう……もうイクよ……







「あああああ〜〜〜」

びゅるる!!!

「隆さんの熱い精液で顔中ベトベトです」

「ごめんナースさん本当に掛けちゃった…」

「…いいえ」

「ちゃんと射精してくれて

嬉しいです」

「たくさん出ましたね」



「射精機能もちゃんと回復しているのが  
わかって私も安心しました」

「あの…気持ち悪いでしょう？」

「早く顔を拭いて…」



「その前に隆さんのおちんぽさんを綺麗にしますね

尿道の中に残っている精液もチューチューしちゃいます」

わわ…こんなことまで

「はい綺麗になりました」



「それでは次は勃起状態の持続力の検査です

一度の射精ですぐに勃起が収まってしまふ様では

問題有りですので…ええと隆さんはどうすれば

エッチな気持ちを持続できますか？」

なら、ナースさ…そに子のオマンコを

もっと良く見てみたい！

「既に見られちゃってますので  
今更…恥ずかしがっても仕方ありませんよね  
そに子のおまんこ…隅々までお見せします  
あの…こ…これで良いですか？」

かまき

おおっパイパンピンクオマンコが目の前に！  
口では割りきったふうには言ってるけど顔が物凄く  
赤面して照れてるのがバレバレで…可愛すぎる

「あ…隆さんの顔がこんな近くて  
…息が…掛かってきます」



どれどれ…

「ああ…広げるのは…」

お、表面は拭いて乾いてたけど

中はまだヌルヌルだ…いや違う  
この蜜は今にじみ出てきてるぞ  
子宮口がこんなに下まで下りてきちゃって  
そに子は僕のチンコをしごきながら  
興奮してたんだね



クリもまだ半勃起状態かな

「あぁっ…舐めちゃダメです…  
んん…っ」

「あぁ…そんな…」  
舌先に伝わる感覚が  
コリコリしてきて…段々と  
勃起してきているのがすぐよく分かるよ





ほらもう完全に勃起してるよ  
うわ…オマンコもうビシヨ濡れに  
なってるじゃないか

「すみません…  
クリトリス…弱いんです…  
ただでさえさっさっきイッたばかりで  
敏感になっていて…」



じゃあもつとイジメちゃおうかな  
ほら、そに子のクリトリス  
ズル剥けにしちゃおう

「や…あ…クリトリスの包皮が  
こんなに捲り上げられてる…  
根本まで剥き出しにされて  
いやらしく勃起してしまってるクリトリスが…  
丸見えに…全部見られちゃってます」





そうだ勃起促進用の電気治療器があったよね  
そに子に使うてあげるね  
これ結構強い刺激がくるんだよね

オマケで乳首はクリップで  
挟んじゃおうw

「あ…私は異常ありませんので…」



電気治療で僕のチンコは玩具みたいに  
勃起させられてたんだその恥ずかしさを  
恋人のそに子にもわかってもらわないと

「そ…そんな」

ビクッ

ビクッ

はい、では乳首からいきま〜す

「ああ……」

おおっ電氣流した途端にピンピンの勃起状態！









「んっ…」

電気を一旦止めて〜





また流します

「だめ…あぁっ♡」

おっ？チヨロっ潮吹いた  
オマンコが自分で閉じたり開いたり  
まるで玩具みたいだねw

でも肝心なクリニに電流が上手く流れないな  
こうなったら「ここ」から…

「え…あつ…そこはおしりの穴です…」



尿道からクリトリスの根本に  
電気を流してあげるよ  
「や…入れちゃ…だめです…」





電氣流しまゝす

「ま…待って…あああああ〜っ♡」

おおっ！ビーンゴ  
クリがすごい勃起してるよ  
はちきれそうなくらい  
パンパンに膨れ上がってる！

ビーン

ビーン

ズン

ズンズン

ズンズン

ビーン

ビーン

ビーン

ズンズン

ズンズン

ズンズン

ズンズン



更に出力を上げてみよう

「だめ…これ以上は…  
んあああああ〜っ♡」

クリがそり勃ってるよ

「ああ…クリトリス…好きにして良いですから  
もう電流をとめてください…このままじゃ…  
私…あっ だめ…もう…でちゃ…ああ〜っ」

ビクッ♡

ビクッ♡

ズッ♡

ビクッ♡

ビクッ♡

ビクッ♡

ビクッ♡

ト♡





「あっ何を？」

オシツ「出してる処もっとよく見せてっらん  
おっこじつすると噴射口が丸見え！」

「やあ…だめ…おしっこの穴広げちゃ…  
飛びちっちゃいます…  
ああ…隆さんを汚しちゃいます」

そに子のならかまわないよ  
とつても綺麗だよ





あゝもっと見たいのに勢いが収まってきちゃった  
そうだこのままこのピンピンのクリに  
電気流したらどうなるかな？



「だめです…」

今とても敏感になってますから…  
そんなことされたら…  
ああ…せめておしっこがとまってから…







「はあはあはあ…」

派手にイッちゃったね  
とっっても可愛かったよ

「降さんは…意地が悪いです…  
ああ…私…こんな…誰にも見せたことないような  
はしたない姿を見られちゃいました…」

セッ

イッ

プッ

プッ

ヒッ

セッ

プッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

でもお漏らし絶頂気持ちよかったんでしょ？  
ほら、もう電気流してないのにクリが  
まだこんなピンピンに勃起してるよ

「そんなことは……  
ああ……だめです……クリトリスつついちゃ……」

ちよっと触っただけで  
びゅびゅって潮漏らしちゃって





素直に白状しないとクリをイジメるの  
やめてあげないよ

「ああっひっぱっちやっ  
わかりましたっ  
ああああ♡」

キエッ...

ア  
ニャ

ビュッ  
ビュッ

ビュッ

ビュッ  
ビュッ

ビュッ

「そに子は...お漏らししながらイクのすごく  
気持ちよかったです  
みっともない処を見られて余計に感じて  
しまっていました...はしたない姿を見られて  
興奮してしまう...いけないナースです」



いけない子にはお仕置きが必要だね  
さらに出力あげちゃおうかな

「ああ…もっこれ以上は…」

「んんあっおまんこ…  
シンシンしちゃいますっ」

すごいオマンコもお尻の穴もパツクリ  
開いちゃってるよ！







「あああ♡まだ強くなっています…」

おおおっすごいぞ指が届きそうなの  
くらくらまで子宮口がせり上がってきてるー！

そこに子の舐ずかしい処  
全部丸見えになってるよ

「やあ…」

ピン

ピン

ピン

ピン

ピン

ピン

ピン





ついに子宮口まで口を開けた  
お尻の穴もほら  
奥まで丸見えだね

「ああ…そんな汚いですから  
見ちゃだめです…」

なかも汚れてないし  
すごく綺麗なピンク色だよ



グニッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ほく



そしてほら…指で子宮口に触れちゃうよ  
口がパツクリ開いてるからこのまま  
中にはいっちゃいそうだ

「あああああああ…だめ…」

おお…入った…  
すごい  
子宮口に指突っ込めるよ!

ビクッ♡

ビクッ♡

カチカチ

ズルッ

フッ

ビクッ♡

ビクッ♡





子宮口に直接電流流したらどうなるかな？

「だめ…許してください…  
んあ…や…私また…」



筋肉が解されたままだから  
我慢出来なかったんだね  
でもお願いしてる最中にオシッコ漏らすような  
態度じゃ聞き入れるわけにいかないな





「ああああ〜♡♡♡」

今度は潮吹きか忙しいねw

トコトコ♡  
トコトコ♡  
トコトコ♡

ぬわん♡  
ぬわん♡

ん♡  
ん♡

「あっあっ子宮の中に電気棒が入ってくる  
子宮を直接ビリビリされちゃいますっ」



「ああああめめめめあああ〜♡♡♡」

すごい潮吹き！  
違うぞこれ子宮口から噴射してる！

「あっあっあああああっ  
身体が変になっちゃいます…」



「ビュビュとシンシン止まらないです  
イツちやう…おまんこ…イツちやいます  
んあっ♡あっ♡あああっ♡」

「あああああああ  
っ♡♡」

潮吹きとオシッコと子宮噴射で  
もう大洪水だよ





子宮口がビクビクしながら開いてる

「降さんの希望通りに恥ずかしい処…  
たくさん晒しました…」

「まだ、おちんぼさんは勃起状態を  
持続出来ていますか？」

おかげさまで…ビクッするほど  
ギンギンです！



「では最後の検査です…  
ん…あ…」

ちよつとナースさん何を？

「本来は…」で検査終了ですが…」

「隆さんには私のおまんこを  
こんなエッチな状態にした  
責任をとって頂きますからね」

え、これ本番行為…本当に良いの？



「はい…隆さんがしっかり

完治していることを

そに子のおまんこで確認してください」

うおお…吸い込まれる…

「もう先っぽが入っちゃいましたよ

隆さんのおちんぽで

下りてしまった子宮を

押し上げてくれたわら」

ズキ

ズキ





「ああ…」

「おちんぼで子宮口が押されて…  
それだけで…イキそうなくらい  
感じちゃいます…」

「ん…あ…奥まで…入りました」

「ああっや…挿入しただけで…  
ピュって…でちゃいました」

「ぞ…子のおまんこ…いかがですか？」

「すごい吸い付きと締め付けで…」

「このままでイキそうなくらい気持ちいいです」

「いま射精されたらおちんぼさんと口を開きながら  
キスしてる子宮に全部注ぎ込まれちゃいますね」



ピュッ

おまんこ

「では…動いていきますよ」

おお…引き抜くことすると  
オマンコが絡みついて  
絞上げてくる…  
ナーズさんのオマンコ最高！

「そ…子…って呼んでください  
そ…子のおまんこは  
全部隆さんのものです隆さんのおちんぽを  
啜え込むための専用おまんこで  
たくさん気持ち良くなってください」



ズル

ズル

ズル  
ズル  
ズル





「ああああっ♡  
す〜い…です…隆さんのおちんぼで  
お腹のなかをグリグリかき回されてます」

「も…もっ…ああっ♡  
イクのがとまりません…  
あああ♡  
連続ですっといキ続けちゃってますっ」

あはっ  
はんっ  
あはっ  
はんっ  
あはっ  
はんっ  
あはっ  
はんっ  
あはっ  
はんっ





「やああああ…  
ごめんなさい…電気治療で筋肉が緩んで  
身体に力が入らなくて…また私…  
いきながら…おしっこ漏らしちゃってます」

「ああ…気持ち良すぎてる…  
このままじゃイクとおしっこ漏らすよ…  
身体が覚えちゃいます」

「良いよそに子  
僕の前では何度お漏らししても許してあげるよ」



ああ…もう出さう…だ…

「はい…その子宮の中に射精してくだらう  
そして子宮のぱっくり口を開けた子宮口  
隆さんの精子全部注ぎ込んでくださいっ」

どい、どい、  
ひゅる、ひゅる、

イク…でる！あああああっ！

「あああああああ~~~~っ♡♡♡  
隆さんの精子…子宮のなかに流れ込んできてる  
熱いのが…いっぱい入ってきてますっ」





「これで検査は終了となります  
しっかりと完治したことが確認できましたね」

「隆さんのすごく気持ちよかったです  
自分に自信を持ってください」



「え？精子が子宮に入ってるか見るんですか？  
は…はい…み…見えますか…？」

ああ…検査中は一生懸命で恥ずかしさも  
薄れていましたが…患者さんにアソコのなか  
覗かれてるなんて恥ずかし過ぎます…」

「え？あつ写真は本当にダメですっ  
完治の記念にどうしても…ですか…  
はい…それでは…誰にも見せないと  
お約束して頂けるのなら…一枚だけ…」





こうして前代未聞の不能治療  
実験は大成功を収めたように思われたが  
完治したはずの患者は良くてナース服フェチに  
こじらせた者だとそに子でしか  
勃起できない性癖を植え付けられて  
更に病状が重くなってしまい

実験は失敗に終わった。  
しかし病院側を訴えたものは  
誰ひとりとして現れなかったという。

おしまい